



浅野 直先生
(吉備医師会から)

昨今、認知症という言葉が社会に広く認識され、日常生活の中で見聞きすることが多くなっています。その中には、認知症高齢者の交通事故の報道など、認知症に対してマイナスなイメージをもってしまふものも少なくありません。しかし最近では、認知症と診断されている本人が認知症であることを公表し、その経験をメディアなどを通じて伝

今月のテーマ
認知症について

認知症のことは本人が教えてくれる

えることが多くなりました。そのおかげで、認知症に対する誤解や偏見が少しずつ減ってきていると感じます。医療の現場でも近年、「認知症の本人のことを理解し寄り添う」ことが重要視され、本人がどのようなことを感じ、考えているのかを知ることの大切さが理解されつつあります。

認知症の人の診察時に、本人からよく聞く症状は、①もの忘れ、②判断の衰え、③時間や場所が分からない、④怒られることが増えた、⑤不安を感じる、⑥何か聞こえる・うるさい、など

問い合わせ 健康医療課健康増進係 (☎②8259)

さまざまです。実は、「何かおかしいな」ということを一番最初に気付くのは認知症の本人であると言われています。

例えば、皆さんが不慣れなところで道に迷い、途方に暮れて、どうか助けてほしいと思ったときなどに、どのように人に声を掛けてもらおうと安心するでしょうか。ちょっとした想像力を働かせて、市民一人ひとりが認知症の人に対する行動を考えていくことで、私たちのまち総社を「認知症になっても安心して暮らせる優しいまち」にしていきたいと思います。

横断歩道は怖い！

横断するかしないのか分かりにくく、止まるべきかどうか迷うことがあります。歩いて車道を横断しようとするときは、接近してくる車の運転者の顔を見たり、手を挙げて横断することを運転者に知らせたりして意思表示をしましょう。また、横断中も左右を見て自分の身を守りましょう。

道路交通法では、自動車運転者の義務として、
○横断歩道に接近するときは、直ちに止まれる速度に減速しなければならない(明らかに人がいない場合は除く)
○横断歩道を通行しているかし

ようとしている歩行者がいるときは、一時停止し歩行者の通行を妨げない

○横断歩道の手前に停止している車両のそばを通過するときは、一時停止する

○横断歩道の手前 30 メートルからは、前の車両を追い抜いて前方に出てはならない

○横断歩道がない交差点付近を横断している人がいるときは横断を妨げない

ことを定めています。横断歩道は歩行者が優先なので、車を運転するときは「横断歩道は怖い」と思って、交通事故を防止するよう気を付けましょう。

監修・問い合わせ 総社警察署 (☎④0110)

安全・安心

総社署からのすすめ

県内で今年6月までに交通事故で亡くなった人は26人です。そのうち7人は、歩行者が道路を横断中に自動車にはねられており、7人のうち2人は横断歩道上ではねられています。一般的には、「横断歩道を渡れば車が止まるから安心」というイメージですが、運転者の中には歩行者に気付かない人も多く、「横断歩道は怖い」ことが現実です。

運転者から見ると、歩行者が

6月定例市議会が閉会

問い合わせ 総務課行政係 (☎②8218)

コロナ弱者のための補正予算を可決

6月定例市議会が6月10日から30日まで開催され、令和3年度一般会計補正予算など、追加提出した議案1件を含む11案件を審議。全て原案どおり可決などされました。

一般会計補正予算は、1億7025万円の増額。新型コロナウイルス感染症関連では、ひとり親以外の低所得の子育て世帯に生活支援特別給付金を支給する経費6557万2000円、一定の要件を満たす生活困窮世帯に自立支援金を支給する経費4512万8000円、介護を必要とするなどの理由から新生活交通雪舟くんを利用できない人などを対象に、

ワクチン接種会場までの交通手段を確保する経費480万円、市内幼稚園に配布する消毒液などの衛生用品を購入する経費620万円などです。このうち生活支援特別給付金に係る補正予算は開会日に審議・可決され、25日には対象者に支給を開始。18日に議案を追加提出した自立支援金は、7月1日から申請を受け付けています。

このほかの補正予算は、新庁舎建設に伴い、公用車の代替駐車場を整備する経費2622万8000円、会議などのペーパーレス化に向けた整備経費214万5000円などです。

また、「より安全な学校給食」の実現に関する陳情が趣旨採択されました。

新型コロナウイルス感染症対策に必要な消毒液やマスクなどを購入し、市内幼稚園に配布する。写真は衛生用品の例



オンラインで赤米子ども交流を実施



赤米に関するクイズに回答する新本小学校の6年生。3市町の収穫量や文化の違いを学んだ

赤米の伝統文化を継承するため、文化が残る地域の児童が互いの市町を訪問する「赤米子ども交流」を前に、6月25日にWEB会議ツールを使用してオンラインで交流を行いました。

新本小学校・長崎県対馬市の豆蔵小学校・鹿児島県南種子町の荃南小学校の児童や総社赤米大使の相川七瀬さんらが参加。クイズを通して3市町の赤米の違いを学んだほか、赤米と白米の食べ比べを行い、赤米への理解を深めていました。

問い合わせ 観光プロジェクト課文化財係 (☎②8363)

東京2020オリンピック
ギニアビサウ共和国の
ホストタウンに登録



7月13日、総社市がギニアビサウ共和国のホストタウンに登録され、相互交流を行うことになりました。ホストタウンは、東京2020オリンピックに参加する国や地域の住民を自治体が支援し、スポーツや文化などの多様な分野で交流する取り組みです。

ギニアビサウ共和国は、7月19日から21日まで柔道の選手団が、29日から8月1日までレスリングの選手団が事前キャンプを行う予定。総社市に滞在し、市武道館で練習します。



問い合わせ スポーツ振興課 (☎②8367)

ギニアビサウ共和国とのホストタウン協定書にサインする市長